

わおん 通信

2017
春号
vol.24

特集

和歌山から広げていこう「エコの和」!!

~instagram、Facebook 環境生活総務課公式アカウント

「エコの和」をご存知ですか?~



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取組

自然エネルギー“風力発電”を学ぼう
有田川エコフェスタ開催
垣根を越えた低炭素社会づくりを学ぶ
第13期推進員養成講座

推進員 タダっちの
ああしたら こうなった

P4 - P5

和歌山から広げていこう「エコの和」!!

~instagram、Facebook 環境生活総務課公式アカウント
「エコの和」をご存知ですか?~

P6 県情報

天神崎自然観察教室の開催

P7

推進員さん訪問記②⑩
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

自然エネルギー “風力発電”を学ぼう

2016年11月27日
すこやか橋本 まなびの日

[和歌山県立橋本体育館]

子供たちへの環境教育を中心に展開する伊都・橋本地球温暖化対策協議会は、「すこやか橋本まなびの日」に出展し

ました。自然エネルギーについて学ぶ機会として、ミニ風力発電キットの作成を行いました。この発電機はペットボトルで羽をつくり、風を送るとLED照明が光るしくみです。発電機が見事完成し、LEDが光ると参加者から大きな拍手がわきました。子供たちは自然の風で電気がつくれることを学ぶ機会となりました。そして、手回し発電機を使った省エネ体験もあり、白熱球とLED照明との比較も行いました。また、同ブース

では家庭のエコ診断も実施。受診者は、我が家の省エネについて知る機会となりました。今後も親子が一堂に会するイベントに参加し、エネルギー

や環境について学ぶきっかけづくりを行っていきたくと思っています。

(推進員 黒井成男)

有田川 エコフェスタ開催

2017年1月29日
有田川町地域交流センター「ALEC(アレック)」

[地域協議会・県センター]

未来の私たちの暮らしはエネルギーをどのようにつくり、利用していくのでしょうか。「自然エネルギーで地域を興す」をテーマに有田川エコフェスタが行われました。第一部では、NPO法人地域再生機構副理事長の野村典博氏が自然エネルギーについて解説、続いて岐阜県石徹白(いとしろ)の住民主導で進められた発電所の事例について話題提供がありました。第二部では、和歌山大学教授湯崎真



梨子氏、同大学教授中島敦司氏と野村氏を交えて、トークセッションが行われました。第一部のお話を聞いた参加者からの質問を元に登壇者からの多様な意見がありました。町内だけでなく町外からの参加もあり、会場は立ち見ができるほどの賑わいに。未来のエネルギーは、もしかすると今の自分たちの手で作ることができるかもしれない。集まった人々は、そんな期待を抱きつつ熱心に話を聞いていた姿が印象的でした。

(推進員 北又一樹)

垣根を越えた 低炭素社会づくりを学ぶ

2017年2月22日
和歌山県JAビル

[和歌山県センター]

NPO法人わかやま環境ネットワーク(WeNET)は、和歌山JAビルにて、講演会「健全な農地と地球環境を未来につなぐ」奇跡の黒い土「テラ・プレタ」をヒントにNPO法人和歌山有機認証協会(WOCA)と共同で開催しました。講師は、環境・経済・平和など幅広くNGO活動をされている田中優さん。

タイトル中の「テラ・プレタ」とは、遙か昔に作物を作っていた痕跡として、アマゾン川流域で見えられた「土」のこと。低温で焼かれた炭が含





まれており、何百年（或いはそれ以上）もの長い間、手入れも無い中で非常に肥沃な状態を維持し続け、さらには二酸化炭素を吸収（↓回収・固定）する力がずば抜けていることが分かっています。

まさにこの「コアラ・プレタ」をヒントに、県内で炭素吸収に軸を置いた農法を広げることができれば？と、会場を埋め尽くした111名の聴講者（主催団体の会員や関連部署）

今期で13回目となる、県の推進員養成講座が和歌山市と御坊市で開催されました。正式な推進員としての委嘱を目指し、20代から60代まで新たな8名が受講、また先輩推進員もオブザーバー参加での講座となりました。第1講は「地球温暖化の現状と対策」をテーマに世界の最新情報や日本が置かれている現状と今後

第13期 推進員養成講座

2017年3月4日 和歌山県民文化会館
2017年3月5日 御坊市公民館

県地球温暖化防止活動推進員、農家、環境問題に関心のある個人や企業など）は、それぞれに和歌山の明るい未来に想いを馳せました。

（推進員 西出づづみ）



の対策が伝えられました。第2講は「和歌山から始める地球温暖化防止活動」をテーマに県内で起こっている気候変動の現状、地域で活躍する推進員や取組の紹介がありました。参加者は熱心に話を聞いていました。最後に、それぞれの自己紹介が行われ一緒にやって取り組んでいこうという一体感が生まれた機会となりました。県内活動がさらに活発になることが期待できる二日間でした。

（県センター 白井）

推進員
のつちの

ああしたらこうなった

仲間とチェーンソーを担いで

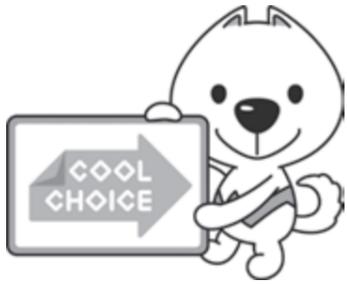
切り倒され放置されたままの間伐材の多さにとても驚きました。それは10年程前、田辺市周辺の推進員仲間と植樹体験で地域内の人工林に入った時の事です。緑化による保全活動の前に、この林地残材を有効活用できないかと思うようになりました。しばらくは色々迷いながらの活動でしたが、やっぱり薪にして熱利用するのが1番（個人の意見です）という事になり、平成25年に林地残材の有効利用を目的にエコネット紀南と山林所有者・梅農家・林業従事者・製炭業者・薪ストーブユーザーらが集い「紀南薪ぐらしネット」を立ちあげました。紀南地域では梅伐採木も毎年大量に出るこ

とがわかり、メンバーと連絡を取りながら間伐材や梅伐採木を山や畑に引き取りに行き、それを薪に加工して薪ストーブユーザーに格安で提供するという活動を続けてきました。その結果、平成25年からの3年で梅伐採木を軽トラ約50車分（25t）、杉・ヒノキを約20車分（10t）、雑木約10車分（5t）を薪に加工し、薪ストーブユーザーに利用してもらっています。これで、石油20t分くらいを薪にできたでしょうか。

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

和歌山から広げていこう「エコの和」!!

～ instagram、Facebook 環境生活総務課公式アカウント「エコの和」をご存知ですか?～



和歌山県ではみなさんの環境にやさしい取組を紹介し広げていく「エコの和」という活動を行っています。「エコの和」は、県が情報を発信するだけでなく、県内、県外のみなさんがご自身の投稿に「#エコの和」をつけていただくことで広がっていきます。まずは「#エコの和」で検索をして、みなさんがどんな取組をしているのかご覧ください。

SNSとは

SNSとは、Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略です。社会的なつながりや広がりを生み出すしくみをインターネット上で構築したもので、情報発信だけでなく、発信者のプロフィールや現在の様子など、実社会と同様に相互のコミュニケーションをはかることができます。最近ではTwitter (ツイッター)、Facebook (フェイスブック)、Instagram (インスタグラム)、LINE (ライン) などがあります。

みんなの「#エコの和」を見てみよう!



冬でも田んぼアートが楽しめる福島県鏡石町キラキラ田んぼアートです。太陽光発電を利用したLED自動点滅発光装置「ペットボトル」を使った環境にやさしいイベントです。



スポGOMIとはチームの力をあわせ、制限時間内に拾ったゴミの質と量を競い合う、地球に最もやさしいスポーツです。ゴミ拾いを楽しみながら、私たちの街、自然をもっときれいにしていきたいと思います。



ディナーや入浴など、普段の生活の一部をおしゃれなキャンドルで楽しめば、節電もできます。アロマキャンドルなどいろんなキャンドルで、楽しみながらも、環境にやさしい取組ができますよ。



天神崎で観察できたカスミサンショウウオの親子とその卵のうです。和歌山県のレッドデータブックにも載っている希少種。環境にやさしい取組はいろいろな生物を守ることに繋がります。

環境にやさしい取組は、普段の生活やイベントなどいろいろなところでできます。もしかすると気付いていないだけかもしれません。

みんなが環境にやさしい取組に気付き、実践できるように、「エコの和」を広げていきませんか。

エコの和 公式アカウント

instagram : エコの和 (eco_no_wa)

Facebook : エコの和 (和歌山県環境生活総務課)

エコの和 ホームページ

和歌山県 環境生活総務課 で検索

天神崎自然観察教室の開催

地域特性を活かした交流型環境学習事業(関西広域連合)

関西広域連合では、関西の特徴的な自然環境をフィールドとした環境学習事業を展開しています。田辺市の天神崎は、日和山を中心とする緑豊かな丘陵部と干潮時に顔を出す平らな岩礁で形成されていて、陸と海の動植物が、平たい岩礁をはさんで同居し、森・磯・海の三者が一体となって一つの生態系を作っています。また、日本におけるナショナルトラスト運動の先駆けの地でもあります。

その天神崎で自然観察と環境保護についてのたのしく学べる自然観察教室を開催します。ぜひ、ご参加ください。

1. 日時

第一回 平成29年5月13日(土) 10:00～15:00

第二回 平成29年5月27日(土) 10:00～15:00

予備日 平成29年6月10日(土)、平成29年6月24日(土)

2. 参加条件と定員

関西広域連合(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、徳島県)の新小学1年生から大人まで100名(先着順)※小・中学生は1グループにつき1人以上の保護者が同伴してください。

3. 場所

天神崎(和歌山県田辺市)の丸山周辺の磯・日和山

4. 活動内容

午前 磯観察 午後 湿地・日和山散策

5. 参加費 無料(当日は事務局にて団体保険に加入します。)

6. 申込方法

滋賀県ホームページ トップページ右側中段の「しがネット受付サービス」からお申込ください。(募集期間は平成29年4月30日(日)まで)

・参加者は保険に加入しますので、必ず申込をお願いします。

・居住地が遠方のため前泊が必要な場合は、1人あたり3,000円の宿泊補助をします。

○しがネット受付サービス：<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/it/shinsei/shiganet.html>

※web または問い合わせ先

関西広域連合広域環境保全局(滋賀県環境政策課) TEL077-522-5664

<http://www.kouiki-kansai.jp/contents.php?id=31>

和歌山県環境生活総務課 TEL073-441-2670

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/econet/index.html>



松っちゃんの

推進員さん^{ひょっこり}の訪問記²⁰



田辺市 安原 克彦 さん

田辺市本宮町にお住まいの安原克彦さんは推進員第8期生で大阪生まれの大阪育ち、子供のころから生物が好きだったといいます。高校卒業後は長野県松本市の大学に進学して生物学を学びました。就職は東京の外資系研究試薬の会社で、病院や大学、製薬会社等の営業を担当しました。そして5年後に環境系の仕事がしたいと有機農産物の流通会社に転職、さらに12年後、今度は自然エネルギーを手掛けたいと木質バイオマスのベンチャーコンサルティング会社に入り、新エネルギーの調査などを担当します。そして3年後の2006年、以前の有機農産物流通会社の元同僚の誘いで本宮町に移住、地元農産物の無添加加工食品工場の工場長となりました。

自然エネルギーを追求したいといつも考えていた安原さんは、友人を介して紀南地域地球温暖化対策協議会（以降紀南協議会）のメンバーと交流をもち始めます。以来、講演会やシンポジウムのスタッフとして活動を開始、推進員には忙しい中で2年をかけて資格を取りました。特にそのワークショップでの地域の仲間作り等が役立ったといいます。

さて安原さんら紀南協議会の活動として特筆すべきは、薪利用を推進しようとみんなで汗を流して「薪ぐらしネット」を立ち上げ、薪ストーブ普及を目指していることです。安原さんは「薪は木質エネルギーとして大切なもので、一人ではできないものがみんな

で協力して薪作りをすれば、薪ストーブのユーザーにもなってくれる。また薪などの地域の自然エネルギー資源を活かした仕事をする人が増えることが大事」とも言います。現在は梅の木を中心に薪作りを行っています。

さらに個人的には、串本町での市民共同発電の立ち上げにも仕組み作りから参加、現在は地域貢献型太陽光発電として30kwと50kwの2基が稼働し、その利益は子育てや青少年育成、海を守ることに役立っているといいます。

安原さんは2010年に地元産の木を使ったログハウスを新築、3キロの太陽光発電とイタリア製で日本初上陸のペレットボイラー・太陽熱温水器・蓄熱タンクを組み合わせた暖房・給湯システムを導入しています。そしてバッテリーも導入して夜も電気を賄えるCO₂を出さない家になりたいと考えています。

生き物が大好きな安原さんは「いろんな生き物が公平に暮らせる地域にしたい、森の生態系が豊かな地域にしたい、生物多様性の地域を発展させたい」と願っています。また地域の温暖化を防ぐことが大きなテーマであることを実感しています。

「灯油ストーブを薪ストーブに!」、「普及すればもっと安くなるバッテリーも、今は高いが進んで購入したい!」、そして推進員としてCO₂削減に確かな実績として貢献している、そんな安原さんでした。



なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 20

* 地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

地球の平均気温、海上はどのように計っているの?

IPCC第5次評価報告書は、1880年から2012年までに世界の平均地上気温が0.85℃上昇したとしています。さてこの「世界の平均地上気温」、どのように測るのでしょうか。

地球の平均気温は緯度5度×経度5度の格子ごとに気温の実測データを集め、そのデータに各格子の面積差（緯度距離は同じですが経度距離は極に近づくほど短くなるため各格子の面積は異なります）を調整した上で平均し算出しています。

この計算のもととなる気温実測データには陸上だけでなく地表の7割を占める海洋のデータも含まれています。地上のデータはもちろん固定した観測所で測っているのですが、では海上のデータはどうしているの

でしょう。

海上の気温を衛星で測る方法も開発中なのですが今はまだ船で測っています。しかし、海上の気温を船上で測るのは、甲板からの反射熱などの影響が無視できない程大きいので正確ではありません。そこでその代わりに海水温を測りこれを海上の気温データとしているのが実情です。とはいえ、海洋表面と海洋上の気温の変動がほぼ等しいことが確認されており、海洋表面の海水温を海洋上の大気温として代用させることに問題はないとされています。昔はバケツで海水を汲み上げて測っていましたが、今はエンジンの取水口付近に設置した温度計で測っているそうです。

イベント情報

2016年度 地球温暖化防止コミュニケーター・養成セミナー

地球温暖化防止コミュニケーターサイト
<http://funtoshare.env.go.jp/ipcc-report/>
 または

温暖化 伝える 検索

<3月開催情報>

- ◆ 3月25日(土) 岡山
- ◆ 3月26日(日) 京都

【お問い合わせ】

地球温暖化防止コミュニケーター事務局
communicator@ondankataisaku.env.go.jp

募 集

賛同者募集中！
わかやまCOOL CHOICEサイト

「未来のために、いま選ぼう」を合言葉に、賛同者を募集しています。

県内では、これまでに2,484人の個人、56団体が賛同の宣言をしています。

すでにさまざまな取組をされている方も、これからやっていこうという方もぜひ宣言を。

またサイトでは今後、県内の「賢い選択」をしているニュースやアイデアを掲載していきます。

宣言は右記のQRコード、または『わかやまクールチョイス』で検索し、サイト内のフォームに入力してください。



WAKAYAMA COOL CHOICE サイト

<http://wenet.info/cc>

わかやまクールチョイス

検索



あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト **わかやま 推進員** **検索** イベント情報も随時更新

県センター通信

ちょっとずつ春の日差しになり、事務所前の海も春霞でやわらかな淡い色合いの景色となっています。今期の養成講座も積極的に活動されている意識の高い方々が8名受講され、それぞれの地域がますます勢いのある活動になる印象を受けました。知れば知るほど待たなしの現状を共有して、引き続き温暖化防止に向けた活動を支援してまいります。推進員をはじめ関係者のみなさま、そして新たに関わってくださるみなさまの協力が欠かせません。よろしくお願いいたします。

2017 春号 vol.24



発行／和歌山県環境生活総務課
 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
 TEL: 073-441-2670 FAX: 073-433-3590
 mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
 〒641-0014 和歌山市毛見996-2
 TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
 mail: wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。